

様式第3

会 議 録 (公開部分)

会 議 名	平成30年度 自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会 第2回(専門部会) 就労支援部会
議題及び議題毎の 公開又は非公開の 別	議題 1 各事業所の課題について意見交換
日 時	平成30年11月28日(水) 午後10時30分から正午まで
場 所	市役所高層棟5階 512会議室
出 席 委 員	部会長 柄澤 隆一 副会長 鳥羽 敬俣 委員 日向 直子 委員 藤澤 洋一 委員 藤井 周 委員 野村 祐一 委員 岡田 莉保 委員 池田 実代 委員 金城 和子 委員 田中 徳寿
欠 席 委 員	委員 永田 洋
事 務 局	小林 智彦(障がい者支援課長) 齋藤 剛(障がい者支援課相談支援係長) 佐田 徹(障がい者支援課相談支援係主任主事) 伊藤亜有美(障がい者支援課相談支援係主任主事)
傍 聴 者	無し
議 事	平成30年度自立支援・障がい者差別解消支援地域協議会第2 回専門部会(就労支援部会)の会議結果(概要)は、次のとおり である。
障がい者支援課長	1 開会 平成30年11月28日午前10時30分、開会した。会議録 作成のため録音機を使用することの了解を得た。永田委員が欠 席することを報告 2 議題 議題1 各事業所の課題について意見交換 現在、障害福祉に関して当市で課題と認識していることは二つ ある。一つは、行政における障がい者雇用率の水増しの問題、

	<p>もう一つは当市の就労継続支援A型事業所の2事業所が不正請求等の理由により千葉県から行政処分を受けた問題である。まず、障がい者雇用率について、当市では雇用障がい者数の水増しはなかったが、職員の分母について誤りがあった。現在、当市の障がい者雇用率は法定雇用率より低い状態であり、充足に向けて人事課を中心に検討中である。次に就労継続支援A型事業所については、営利目的の質の悪い事業所が多いことが全国的に問題となっている。この二つの案件に限らず、障がい者の就労問題は多いと考えるが、各事業所が課題と認識していることや、その解決策をこの部会において期待する。</p> <p>(ここで障がい者支援課長は所用につき退出する。以降は柄澤部会長が会議を進行した。)</p>
柄澤部会長	今回は特定のテーマを定めず、各委員間の意見交換や情報発信の場としたい。何か意見はあるか。
金城委員	11月9日に我孫子市で開催された障害者雇用促進就職面接会はどうだったか。
柄澤部会長	ハローワークの公式な発表がないので正確な参加者数は不明だが、社会福祉法人は一とふるの利用者で参加した者は20名ほどで、2名が雇用に至った。今年は障がい者雇用の動きが活発で、企業が真剣に検討している印象がある。野田特別支援学校の状況はどうか。
藤井委員	面接会等に職員が参加することはあるが、生徒は参加できていない。特別支援学校の生徒向けの求人が少ない。
金城委員	今回の我孫子市の面接会では、キッコーマン総合病院が来るという情報があったが、当日はいなかった。
藤井委員	面接会当日には既に充足していたと聞いている。野田市内の一般高校の3年生で、障がい者手帳の所持者という話だった。
柄澤部会長	特別支援学校と異なり、一般高校の卒業生の場合は障がい者であっても雇用後の支援が少ない。雇用後のノウハウを持つ特別支援学校と一般高校の間で連携を密にできないかと考えている。
藤井委員	一般高校と連携した事例が一件ある。一般高校に障がい者の支援の仕方について、情報共有を行った。

柄澤部会長	次に就労支援継続B型の課題に移りたい。今年度の報酬改定で、目標工賃達成加算が廃止され、実際の工賃により給付費が決まるようになった。定員20人以下の事業所が昨年と同等の報酬を得るには、平均工賃月額が1万円以上2万円未満である必要があるが、実際は5千円前後の事業所が多い。単価が減少し、運営が苦しい事業所が多いと思うが、各委員の意見はどうか。
鳥羽副部会長	指定多機能型事業所つばさにおいては、工賃を増やす対策は進んでいない。そもそもは障がい者の居場所として設置した事業所だったので、生産、販売するための場所や設備がない。また、利用者を一般就労させるのが就労継続支援B型の目的だが、能力の高い利用者が一般就労すると、工賃が下がるため、経営側としては判断が難しい。
野村委員	野田市心身障がい者福祉作業所では内職下請けと自主事業を約半々の割合で実施している。単価が高い内職は納期が厳しく、職員が残業して納品するのは避けたいため、自主事業の割合を増やしたい。現在の工賃は8千円前後だが、給付費を考えると1万円にしたいと考えている。しかし、7千円から8千円を増やすのにも時間が掛かったことを考えると、あと3千円増やすのは難しい。
日向委員	あすなる職業指導所ではパンの売上げが大きく工賃は安定しており、1万7千円から2万3千円前後となっている。利用者の出席率は96%から98%前後で、販路は10か所に増加した。内職については5社と契約しているが、大量の注文が来た際に断るか、一時的に職員が残業して頑張るかの判断が難しい。
池田委員	地域活動支援センターのぞみの状況だが、内職の納期が厳しい。利用者だけではできず、職員が対応している。納期を考えると、1日で7千円から8千円前後の作業をしなければならないが、実際は5千円から6千円前後となっている。
柄澤部会長	人口減少社会で労働者の不足が問題となっているが、障がい者雇用に関して、野田市の企業から依頼はないか。
田中委員	障がい者に限った雇用の話は今のところない。しかし、労働者不足の問題は深刻で、7月に市主催で合同企業面接会を実施し、29社が参加したが、残念ながら面接にはあまり至らなかった。今回の反省を生かして、来年度も実施しようと考えている。また、別件になるが、出入国管理法の改正で外国人の採用を考えている企業があると聞いている。

柄澤部会長	次に就労支援部会の委員について検討したい。就労継続支援A型や、市内で新規に事業を開始した就労継続支援B型の事業所に参加させても良いかと考えるがどうか。
金城委員	本来は就労継続支援A型に関する委員も参加させるべきと考える。しかし、就労継続支援A型が工賃1万円、就労継続支援B型は5千円前後という状況では、温度差が生まれる可能性もある。
柄澤部会長	就労継続支援A型は営利の側面が強く、就労継続支援B型は福祉の側面が強い。そこに意識の差があるとも思う。委員の参加について事務局はどう考えているか。
相談支援係長	<p>新規の就労継続支援B型事業所の参加は問題ないと考える。就労継続支援A型事業所は行政処分があったため、今後の状況を注視しながら検討する必要があると考える。</p> <p>3 閉会 その他は特に意見がなかったため、正午、閉会を宣言した。</p>